

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290800071		
法人名	医療法人社団水澄み会		
事業所名	グループホームもやいの家うのはな		
所在地	島根県益田市遠田町179-2		
自己評価作成日	令和2年11月17日	評価結果市町村受理日	令和3年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	令和2年12月15日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

デイサービス、有料老人ホームが併設される複合施設。グループホーム利用者様と施設職員間だけでなく、他サービスの利用者様との顔なじみの関係を大事にし、交流を図ることや職員間の情報共有を行い支援している。利用者様の意向や好みに合わせた生活を送っていただくことを基本とし、日常生活の中で持っておられる力を出せる場面をつくり、機能維持と生活のハリが持てることを目指している。コロナ対策の為面会が制限されているが、運営推進会議報告や月ごとの写真入りお便りやブログで、利用者様の生活の様子をお伝えしている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

3階建ての建物の1Fがデイサービス、2Fが有料老人ホーム、3Fがグループホームになっている。日本海に面した高台にあるため、180度海が見渡せるような絶好のロケーションを有している。今までは建物内を行き来しての交流が気分転換の良い機会になっていたが、今年はコロナ感染症対策の為ストレスを感じながら苦慮している様子が伺えた。その中でも災害時の対応では、2、3Fが協力しての避難訓練、そして備蓄の見直しと災害を想定内の事としてとらえた前向きな取り組みを行っていた。ここ数年は職員の入れ替わりもなく、雇用の面では安定しているが、反面職員のモチベーションを上げるような場面が少なく、意識改革の必要性を感じている職員の意見もあった。ホールからは体操や歌を楽しんでいる入所者の声がよく聞かれ、明るい雰囲気がよく伝わってきていた。今後も職員個々にレベルアップに努め、引き続き認知症ケアの充実を目指していただきたい。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年法人の理念・方針に基づき、事業所目標を設定し、各職員は管理者と面接や話し合う時間をもち、確認助言を行っている。個々の力量に合わせた目標を掲げ事業所目標達成に取り組んでいる。	グループ全体としての企業理念のもとに方針が明記され、それに合わせて各事業所が目標を設定しその目標達成の為に個々に目標をたて取り組むようになっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の清掃活動に参加させていただき施設職員として地域の方に顔を知って頂くよう務めている。新型コロナウイルスの影響で施設に入っただけでない状況ではあるが、運営推進会議報告を文書で行い意見をいただいている。	以前は地区の色々な行事に参加したり、ボランティア交流もあったが、今年はコロナの影響で地区の海岸清掃への参加に限られた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの感染防止の為、会議開催はできていないが、運営推進会議報告書にて 現況・活動報告を行っている。また、ブログや お便りで利用者の日々の生活状況をお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナ感染症対策の為、会議は開催できていないが、文書で活動内容等の報告を行い、ご意見をいただいている。利用者様の生活を支えていくためのご意見をいただき日々の支援に生かすよう務めている。	例年のように開催できない為、参加予定者に利用者状況に行事、委員会活動などを伝えることで意見を得ている。寄せられた意見を含めて再度送付することで会議としていたが、今回からは感染防止を徹底し最低限の参加者での開催にこぎつけた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議報告書により事業所内の活動・現状等の報告や、行政からの情報提供をいただくなどの連携をとっている。	運営推進会議には毎回参加があり介護保険関係を含めて様々な助言を得ていた。認定調査での関わりのほか、空き情報を伝えたり入所の問い合わせを受けたりといい関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な身体拘束に関する勉強会を行っている。利用者個々のケア場面で身体拘束につながる可能性はないか？と疑問点は職員全員でその都度話し合い、身体拘束の無いケアに取り組んでいる。	虐待を含めたチェックを2か月に1回職員個々に記入しており、結果を見て反省に繋げるようにしている。玄関の施錠はしていないが3Fの為エレベーター等の利用時には職員が必ず付き添い事故防止を徹底している。今年度は施設内研修で理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開き学ぶ機会を設けている。また2ヶ月に1回自己チェックを行い、自身のケアについて取り組み方の分析・今後の取り組みについて話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業や成年後見制度を使っておられる利用者はいないが、権利擁護に関する勉強会を年間計画の中に入れ、制度について理解を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時や利用料等の改定の際には家族様お一人おひとりに、書面や電話で説明をさせて頂き、理解、納得をいただくよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には管理者だけでなくどの職員でも、家族様の要望や意見が伺えるように努めている。また、運営推進会議・「お客様アンケート」を実施し意見を伺う機会を設け、意向把握や改善に努めている。	例年は年1回家族関係者の参加で交流会を行い、家族同志の交流を含め事業全般に対し意見を聞く場があったが今年度は中止。活動状況は運営推進会議で報告する形で行い、担当が個人的に写真に撮り様子を伝える便りを送り意見を得るようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH会議や全体会議にて職員の意見交換の場がある。職員との面談や会議体にて聴取し、反映するよう努めている。	管理者が個別に話をすることが必要と判断した場合には面談を行っていたが、今年度は行っていない。会議や日々のミーティングで意見を聞くようにしている。	職員個々に意見を聞く機会を持つなどしてコミュニケーションを深めるような取り組みに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員ひとり一人の職能や自己の業務目標達成状況、勤務状況を評価し給与面・待遇面に反映させる仕組みがある。また、職員処遇加算、特定加算がとれる体制となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量・意欲に合わせステップアップのための研修・受講の機会、制度がある。新人、中途職員を教育・評価する仕組みがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナ感染症対策の為、地域のグループホーム事業所間の交流会は開催されていない。法人内で行われる、内部監査に参加し、他事業所の取組や抱えている問題等情報交換を行い、自事業所の運営の参考となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査・面接時に身体的精神的な不安・困りごとを聞き取把握するよう努めている。可能であれば入居までの間顔なじみの関係が作れる様、対話に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現況伺いから入居されるまでの間、連絡を取り合う際には、家族様のお話に耳を傾け、困っていたことや心配事など伺い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	CM・施設相談員等関係するところからの情報を基に本人にとって一番安心できる環境を見極め、家族様と共に考え、受け入れに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のできる力を見極め、職員も一緒に参加することで、達成感や喜び・感謝の気持ちを共有できる関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の本人の様子や言葉等を手紙や電話等でお伝えし、ケア方法の相談をさせていただき、一緒に支えていける関係となるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、かつて同施設内のデイや有料老人ホームの馴染みの方との直接的な交流はできない状況だが、伝言やプレゼントの取り次ぎ、外作業が一緒に出来るよう配慮するなど、関係が切れないよう計らっている。	同じ建物の中にあるデイや有料から入所した方がいるため、友人や近所の方に会いによく出向いていたが、今年は難しい状況。その中でも以前から利用していた訪問散髪は感染防止しながら継続している。顔馴染みの関係ができており、喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性や日々変わる状態に合わせ、ストレスなく過ごせるようフロアの座る位置を決め、個々に合わせた活動をお勧めし、個別であってもみんなと一緒の雰囲気を感じられるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームを退去されたのちも入居先の施設との連携や、家族様との事務的な連絡を取らせていただいた折、ご本人の様子をお聞きし共に喜びあうことが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段からの言動や行動の中から本人の信条や譲れない思いなどの把握に努め、介護する側の視点だけでケアの方向を決めることの無いよう、思いに沿ったケアに努めている。	1対1でじっくりと話を聞く形はとりにくいが、日々のケアの中で発せられた言葉とか思いを集約するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネや家族からの情報、本人との会話の中で把握に努めている。入居後も家族からその都度伺い把握するよう務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調や生活の様子を観察メモや生活記録として残している。体調の特変ある時、利用者の特徴的な変化がみられる時は、個別の観察メモで状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	新型コロナウイルス感染症対策の為、家族様が参加される形での担当者会議はできていないが、家族様と普段の連絡を取り合う中で、家族からの提案や意向をくみ取り、プランに反映するよう努めている。	今年はコロナで担当者会議の開催ができなかったため、モニタリングの結果を基に職員間で話し合ったサービス内容等を家族関係者に送り、意見をj得る形でプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録やインシデント報告書を使い利用者様の現状を把握し職員間で情報共有を図っている。必要に応じてサービス内容等プランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の筋力低下の状況に対応するため、施設内他の専門職の意見や提案を聞き、器具の貸し出しを受け、機能維持が図れるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の方や公民館の職員、地元の方へ運営推進介護報告をさせていただき、GHの現状を理解して頂くよう務めている。又、訪問散髪の方とのなじみの関係が出来、会話を楽しむ機会となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向を尊重し、かかりつけ医を決めて頂いている。往診時には本人の体調・生活の様子などを伝え、指示を頂いている。	今までのかかりつけ医を継続することも、往診可能な協力医に変更することも可能になっており、入所時に決定することになっている。大半の方は変更を希望され、2週間に1度の往診を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回施設内の看護師による利用者の体調確認や往診の対応を行っている。往診・特変メモで職員と看護師の情報共有が図れる様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は早めに病院相談員との連絡・相談が出来る体制を作るよう努めている。協力医療機関とは定期的な情報交換の機会があり、関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	症状の変化やその時の対応などを家族や主治医と話し合い、支援に努めている。ホームで出来る事、出来ないことを家族に説明・理解いただき支援に取り組んでいる。	希望されていた特老入所の方が数名あったが、ここ数年は看取りの対象者が無い状況。以前も看取りに対応していたこともあり、希望があれば協力医を含めて話し合いを行いながら進めていく意向を持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者個別で想定される急変時の対応について、申し送り事項として支援経過や管理日誌で共有し、実施している。AED訓練を定期的に行い、急変時の対応法の勉強会を通して知識の向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル整備実施し、施設周辺の地理状況に合わせた避難計画を作り、定期的に訓練を行い全職員に周知している。運営推進会議で訓練の計画実施の状況等報告を行っている。	建物が3Fなので災害時一律に他に移動して避難する形が適当ではないことから、ここ独自の対策を検討するようにしている。夜間利用のある2、3Fでの合同避難訓練を実施したり、備蓄の確保も検討課題にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人一人が利用者とのコミュニケーションの取り方やプライバシーへの配慮について、勉強会やGH会議で定期的に振り返りを行うことで意識向上に努めている。	ケアの際にはトイレ介助時の声かけや入浴時の脱衣場での配慮等、1人対応が多くなり、気になる場面も見えるので、個人情報の管理を含めて、会議や研修で繰り返し取り上げることにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いがうまく言えない方にはその方のいつもの過ごし方を振り返り、「..しませんか?」「●と▲どちらが良いですか?」等自己決定しやすい声掛けを行い、可能な限り職員ペースにならない様注意している。。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「●●したい」の気持ちを大切にし、日々利用者の状態変化を観察・理解した上で、無理なく参加できる活動を提案している。支援のため、職員の役割分担を行いプランに沿って実施するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院は利用者・家族の意向に沿った形でしてもらっている。日々の身支度は利用者の意向を尊重しつつ、又要望を言えない方には季節や着心地を配慮し服選びを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや、盛り付け・食器の片付け洗い物等をして頂いている。月行事の中でお菓子作りに参加され、利用者同士の交流もあり楽しまれている。	料理好きの方が多く、切る等の下準備やテーブル拭きや片付けなどできる作業を職員と一緒にやっている。ラジオ体操や口腔体操、頭の体操など時間をかけて行っており、元気な声が食堂から聞こえている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食品等嗜好に合うものも提供し食事意欲が維持できるよう支援し、一人一人に合わせた食事形態で提供している。利用者の好みや飲みやすい形態で水分摂取できる様努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者が出来る部分は行って頂くよう、声掛けや促しを行っている。ご自身で行えない場合はできない部分を介助し、利用者個々に合った対応で口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握した上で、トイレの声掛け・誘導を行い、排泄失敗の軽減に努めている。衛生保持のため一方的にケアを行うのではなく、利用者の心情にも注意を払い、理解を求めながら関わるように努めている。	声掛けや誘導は個々に合わせた対応をとっている。紙パンツにパットの利用者が多いが交換がしにくい方もあり、声掛け等検討している。箱単位で購入し単価が安くて済むよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を職員間で共有している。毎朝バナナヨーグルトをメニューにとり入れ、一人一人に合わせた運動も行っている。便秘が続くときは往診時相談をさせて頂き、苦痛のないように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴間隔・体調を見ながら意向を伺い入って頂いている。出来る限り入浴タイミングは利用者の意向に沿えるよう支援している。	家庭用浴槽の為重度で中に入れられない方はシャワー浴対応としている。1対1の対応でゆっくり入れるようにし、3日に1回の回数を確保するようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休んで頂く時間時間を決めずに、利用者の意向を尊重し、利用者に合わせて環境で安心して休んで頂けるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく出された薬は、全職員が説明書きを確認し変化の様子を観察・記録している。状態を記録し主治医・家族らと服薬の必要性を検討させて頂く事もある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に出来ることや、やりたいことの情報職員間で把握共有している。役割を持ち、主役となれる場面が日々の生活の中やレクレーションの中で見られるよう、機会を作り支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍の為、面会や外出の制限があるが、来所時に様子をお伝えしたり、電話をかけた会話することで利用者・家族が安心していただける時間を作っている。気分転換も兼ねて、建物周辺の散歩や畑に出かけ野菜を収穫・様子を見る等している。	年間の行事計画で外出の計画はあったがコロナで外出の機会は減っている。施設周辺は住宅地で車も限られているため、団地内を散歩するようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個々のお金に関しての考え方について理解に努めている。本人がお金で物を買うことはほとんどないが、利用者の要望を家族に伝え叶えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等の協力が得られる限り、意向があれば電話の取次ぎを行っている。届きものがあつた場合お礼の言葉が伝えられるよう電話の取次ぎを行い、会話が不明瞭な時は中継ぎしお伝えすることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダに出て景色を見て季節を感じたり、季節ごとに利用者が一緒に作った壁面や生花が飾られている。レクや行事等の写真や作品を廊下に飾り、楽しんで見て頂けるように努めている。	海を見下ろす高台の3Fに位置しているため、施設のどこからでも海を中心とした雄大な景色を常時眺めることができる。窓からよく陽が入り明るく、冬場の風の音以外は音もなく静かなゆったりとした空間がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	離れていながらも他者の気配を感じられる場所で景色を楽しめたり、好みに合わせた音楽等が効かれるよう配慮している。ベランダ近くのベンチでは一人でもっとできる場所となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、家族様に本人の使い慣れたものや馴染んだものを置いて頂くようお願いしている。家具の配置も本人の特性を考慮したものとなる様、相談しながら行っている。	今まで使っていた高めのベッド、テレビ、仏壇、冷蔵庫に衣装ケースなど多くの物が持ち込まれている。花好きの方には職員が季節の花を持ってきて部屋に生けるようにしたり、ゆっくりくつろげるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせた環境づくりを行っている。夜間であっても動線となる場所は明るくし、安心して動けるよう配慮している。床はどこもフラットになっており、歩行に障害が無いようにしている。		